

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700038		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム夕陽丘 3階		
所在地	大阪府大阪市天王寺区上汐6-3-9		
自己評価作成日	平成28年6月25日	評価結果市町村受理日	平成28年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2791700038-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型施設ということを念頭に置き、近隣の方との交流を図れるよう、行事等への声掛けを行っている。 ・入居者様の外出に注力しており、外の空気に触れて頂く機会を多く設けている。 ・毎月施設全体で会議を開催し、諸々の問題点を話し合っている。また、同時に勉強会を開催し、スタッフのスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは利用者にとって第二の我が家と思ってもらえるようなホームを目指し、個々の利用者を知ることから始め、職員全員で気付きや情報を持ち寄り考えた介護計画を基に、それぞれので出来る事を大切に暮らしに向けて支援に努めています。外出支援に力を入れ、徐々に重度化する中でも管理者や職員間で連携を図り、日々の希望にそって個別や少人数で出かける機会を作ったり、近隣に点在する神社仏閣の多くの祭りや行事等にも参加し利用者は外出を楽しんでいます。思いにそって自宅に戻ったことで住み替えと理解されホームを我が家と納得されるようになった方もいます。また職員の離職は少なく利用者との馴染みの関係を築き、勉強会や研修を重ねながらスキルアップを図り、会議等で意見を話し合い業務改善を行う中で利用者の状況に合わせた暮らしを支援しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的人権の尊重、健全育成・援護の実施、社会的自立の助長、地域福祉への貢献。 「笑顔あふれるなごみの家」をホームの理念に掲げている。	法人の理念の基作成された独自の理念には、当該ホームが利用者にとって第二の我が家となるために大切にすることが掲げられています。日々ケアの中で第二の家と感じてもらえるような関わりを考え理念の実践に繋げ、毎月の会議の中でも振り返る機会となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域内の様々な情報を提供して頂いている。また、運営推進会議で地域のイベントや取り組み、課題等について情報交換している。	近隣に神社仏閣が多く祭りや行事等も多く利用者と共に参加したり、クラフトや生け花のボランティアの来訪やホームの餅つきに近隣の子どもが来てくれるなど交流が図られています。利用者が保育所で合唱を披露したこともあり時折散歩の際に立ち寄ってくれることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護の相談、希望者に対して認知症の介護方法・施設選択の助言等を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現サービスの実施について報告し、ご家族や第三者からの助言を頂き、更なるサービスの向上に努めている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員や地域ネットワーク委員、後見人等の参加を得て併設する施設と合同で2か月に1回開催し、利用者の状況やホームの活動等について報告し質問を受け答えたり、参加者から地域の情報を得ながら意見交換をしています。小学生との関わりに向けた課題を伝えたことをきっかけに地域ネットワーク委員と小学生の下校時の見守りへの参加への取り組みに繋げるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会をはじめ、区役所や大阪市の介護保険課等とも連絡をとりやすい関係を構築できるよう努めている。	運営に関する疑問や相談事、事故等の報告があれば直接区役所の窓口に行き、市へは電話をかけて現状を伝えながら聞き運営に活かしています。行政からの研修案内が届いた際には必要に応じて参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。勉強会の定期テーマとして組み込む。また、とあるご家族より安全のために拘束を許容するご提案があったが、フロアや社内でミーティングを実施、行わない旨の結論を得て、ご家族と協議してご理解頂いた。	身体拘束についての研修は、法人内や事業所での研修など年3回は行われ、言葉掛けなど具体的なケアの方法も含め職員に周知を図っています。玄関は防犯のために施錠していますが、エレベーターやフロアの出入り口は自由に行き来ができ、外に出たい様子があればできる限り一緒に出掛けるなど思いに寄り添い、拘束感のない暮らしを支援しています。	

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。また、勉強会の定期テーマとして組み込み、新職員にとっては学習・在職者にとっては復習ができるようプログラムしている。利用者に対する細やかな状態観察、スタッフとの定期面談も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種公的機関等から資料を収集して学習の機会を設け、必要に応じてご家族へも情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と話し合いを実施し、契約後も不安・疑問点には速やかに対応するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、投函があれば速やかに内容を検討し、運営者への報告も随時行っている。	年に2回の家族会や年に1度の法人によるアンケートなど、意見や要望を聞く機会を設けていますが、日々の面会時にコミュニケーションを図り直接意見を言うてもらうことが多くあります。日中の過ごし方や掃除についての質問や意見があり都度現状を伝え対応し、職員にも伝えサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用意見箱をタイムカードの横に設置し、定期的に意見用紙を回収している。また、管理者会議において、現場から出た意見について話し合っている。	月に1回の全体会議を行ったり、意見や提案があれば直接管理者へ言える関係が日常的に築かれています。利用者の状況に合わせた職員の業務改善やフロア内の椅子やテーブルの配置換えについての意見が出され実践しています。法人内にホームページ委員会があり意見交換したり、管理者会議で法人に提案する機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合せた業務内容の変更を実施。職員からの提案があれば、できる限り取り入れられるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が学習したいテーマを出し合い、それに沿った内容で勉強会を開催することで、参加意欲・学習意欲の向上を図っている。		

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの会議や職員懇親行事、合同レクリエーションを開催し、交流の機会を設けている。各種連絡会等にも参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に際し、十分な説明や体験利用の機会を設け、面接は自宅や病院に職員が訪問し、本人がリラックスして話ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族と面接や電話にて連絡をとり、要望や不安等をしっかりと聞き、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、まず現状や支援内容を把握し、必要に応じて様々な介護サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、様々なことを学びながら日々の暮らし・食事・レクリエーション等を共に楽しむように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と積極的に対話し、柔軟な姿勢でニーズに対応できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	周辺地域への外出やイベントへの参加等を通じて、地域とのつながりを継続できるよう支援している。	事業所は馴染みの人や場の関係が継続できるよう努め、人や場の関係継続を心掛けています。兄弟や知人の来訪ははじめ以前の教え子に手紙を出し返事があったり、誕生日には個々の希望を聞き自宅の周辺や以前行っていた商店街に外出したり、希望に沿って個別外出で出かけた趣味の演奏会で知人に出会うなど馴染みの人や場の関係継続できるように支援しています。	

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、利用者同士の円滑なコミュニケーションが図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、介護サービス等についての相談・助言を受け付けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意思疎通困難な場合は、ご家族に意向や過去の生活歴等を伺い、本人本位の生活が送れるよう支援している。	入居前には自宅等を訪問し本人や家族から意向や希望を聞き、以前のケアマネジャーやサービス事業所からも情報を得ています。入居後は個々の職員が利用者をより深く知りたいとの姿勢で関わり、カンファレンスで本人本位に話し合っています。思いの把握の困難な場合は更に職員全員で利用者から聞いた言葉や暮らし方を記録して整理し、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に、利用までの経緯や生活歴等についてしっかりと情報収集を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子をよく観察し、訴えがない利用者でも心身状態に変化が見られた際は主治医やご家族に相談し、ケア方法の変更等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的フロア会議や毎日の申し送り時に、気になったことやケア内容について話し合っている。外部からの関係者とも円滑にコミュニケーションが図れるよう努めている。	利用者の思いや家族の意向、全職員でアセスメントを行いサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い家族にも報告し、3か月毎にサービス担当者会議を開き6か月毎に見直しています。会議の開催に当たっては家族の意向はじめ、往診時の医師や訪問看護師、訪問歯科、整骨医等の意見も聞き計画に反映できるように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や各チェック表を活用しながら日々の様子等を記録し、生活の様子や変化の過程を周知できるよう努めている。		

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、できる限り柔軟な対応をできるよう、職員配置等に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力やニーズをしっかりと把握し、多様なサービスを組み合わせながら支援できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、本人やご家族へのアドバイスをし、状態によっては受診の付き添い等も行っている。	今までのかかりつけ医や専門医へは家族と受診し、ホームの往診医に変更している利用者は個々に往診日が決まっております月に2回診察を受けています。週に1度の訪問看護師による健康管理や希望により口腔ケアや歯科検診、治療も受けています。かかりつけ医とは24時間連絡をとることができ、往診日以外の往診にも対応してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーションより定期的に看護師が訪問しており、入居者の健康チェック・スタッフとの情報交換等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を密にとり、スムーズな情報交換や退院後のフォローに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の「できること・できないこと」を検討し、医療関係者と共にチームで支援を行えるよう取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の支援ができること等を説明し、希望を聞いています。重度化に伴い医師から病状説明を受け、家族とその都度話し合い希望にそえるように取り組んでいます。以前に看取りの支援をした経験もあり、勉強会をしたり医療連携などの体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講実績あり。その他の初期対応については定期勉強会で講義・実技講習を行っている。		

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で有事の際における協力を呼びかけており、火災報知器等の設備面や非常時の対応について、利用者参加型の訓練を実施している。	年に2回行う消防訓練には消防署の立ち合いがあり、夜間想定を中心に消火栓の使い方や避難誘導等を実施しアドバイスをもらっています。運営推進会議で地域の方の協力に向けて働きかけています。水などの備蓄やカセットコンロやガスボンベ等の備品も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行度合いや理解度に個人差があるが、各人の状態に応じた対応を行い、人格や自尊心を尊重できるよう努めている。	プライバシーや接遇マナーについての研修会を行い、年長者として敬い尊重した対応を心がけています。利用者との信頼関係を築くことを大切にし、親しみのある言葉遣いで対応することもあります。排泄支援時の声の大きさに注意したり、入浴時にはタオルを掛けたり同性介助の希望を聞く等羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係の構築を前提とし、意思疎通の難しい利用者からでも些細なサインから本人のニーズを汲み取り、ケアに反映できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れは決まっているが、行事や本人の体調・希望に応じて柔軟に変更するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時訪問美容等を利用し、身だしなみを整え、生活の活性が図れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の能力や得意・不得意に応じて、可能な家事は手伝って頂いている。	献立にそって食材が届き、職員はアレンジを加えながら食事を作り、利用者は野菜の皮をむいたり、調理、盛り付け食器洗い、ぬか漬け作りなどに携わってもらっています。職員も一緒に食卓に着き同じものを食べながら会話や介助を行い、和やかな食事の時間となっています。時には希望を聞きハンバーガーを食べたり、ドーナツやぜんざいなどの手作りおやつ、寿司などの外食等を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の摂取状態等を見極め、形態の変更や分量の調節を行い、快適に飲食ができるよう支援している。		

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、希望者には歯科の訪問診療も導入している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の尿意・便意の状態等を見極め、随時声かけや誘導等を行っている。	個別記録で排泄の時間を把握し、個々のリズムでトイレに行けるように支援しています。その方の力を最大限に活かし自立に向けた支援となるよう職員間で日々話し合い、紙パンツから布の下着に変更した利用者もおり排泄用品も現状に応じたものを選択できるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時以外にも定期的に水分補給の機会を設け、必要に応じて医師の指示のもと、服薬の管理等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴の時間帯や日は決まっているが、本人の体調や気分等に応じて調節するよう努めている。	入浴は週に3回を基本に、機械浴もあり重度になっても安全に湯船に入ってもらっています。日中の時間帯で個々に合わせたペースで入浴できるように支援し、好みのシャンプーなどを持参する方が居たり、時にはゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も行い入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の睡眠の状態や体調に合わせ、室温調整その他を行い、快適に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何のために服薬しているのかをしっかりと理解し、適切な支援が行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を考慮し、各自が役割や楽しみを持ってホームでの時間を過ごせるよう支援している。		

グループホーム夕陽丘(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近場での買い物は随時支援行い、気分転換のための外食もできるよう努めている。また、季節毎の行事で外出等を企画・実施している。	天気や気候の良い日には散歩や買い物に出掛けたり、玄関前のベンチで外気浴をする等日常的に外に出る機会を作っています。地域の祭り等の行事や寺のお茶会、多くのイベントが開催され参加しています。外出行事では花見や通天閣などに出かけ楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は概ねホーム側が管理しているが、必要に応じて買い物等に同伴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ペンや便箋は事務所に常時置いてあり、希望時には事務所にて電話もできる。筆記が難しい方には見本を提示してご家族あてのお手紙を書いて頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事やお誕生日会の写真・新聞等を掲示しており、利用者も更新を楽しみにしている様子である。	共有空間には利用者と一緒に作成したクラフトや壁絵、行事や日常の写真を飾り、季節を感じられ温かな雰囲気作りをしています。フロアごとに利用者の好みや生活状況に合わせてソファやテーブル、テレビ等の配置を決め過ぎしやすいように配慮しています。日々換気や掃除を行い、利用者の体感も聞きながら温湿度管理にも気を配り居心地の良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は仲の良い利用者同士でゆっくりと過ごせるよう配慮している。また、ゆっくりとテレビを観たり、くつろぐためのソファや、ベッド付きの個室も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持参頂けるようご家族には促しているが、居室の大きさ等から、小ぶりで新しい物を用意されることが多い。	入居時に使い慣れたものを持って来てもらうように伝え、自宅から大切にしていた鏡台や机、椅子、仏壇等を持って来られ家族と相談し配置を決めています。生活する中で移動しやすさ等を考え配置換えをすることもあります。家族や花等の写真を飾ったり、アロマランプを置く等その人らしい居室作りを心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に混乱が激しい利用者はいないが、各人の状態に応じて随時対応を検討するよう努めている。		